

社会福祉法人うるま市社会福祉協議会  
令和5年度事業報告

1 総括

我々の生活に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症は、昨年5月「第5類感染症」に移行され、コロナ禍以前の日常生活が戻ってきたことで、人と人がつながり社会・経済活動も活発化してきました。うるま市社協においても行政や地域・企業と連携し法人・受託事業など制限のない形で各種事業が実施となりました。一方で経済的困窮世帯の生活再建の課題や少子高齢化等、家族形態の変容に伴う子どもの不登校・引きこもり問題、独居高齢者の増加など社会的孤立となる状況が顕在化していることから、移動支援や買い物支援等、社会参加活動への参加や復帰が困難な方々へ多様な相談支援や地域とのつながりの構築に取り組んできました。

うるま市では、地域共生社会の実現の具現化に向けて創設された「重層的支援体制整備事業」の移行準備事業が令和5年度から始まりました。

本会においても「第四次うるま市地域福祉計画」及び「第4次うるま市地域福祉活動計画」を基本としながら、市と協働し、包括的支援のための住民の福祉意識の醸成と支え合いの仕組みづくり「支え合い委員会」の設置、コミュニティソーシャルワーカーを軸とした関係機関、企業等あらゆる主体との連携協働による総合相談体制の強化、支援ネットワークの構築など「新たなつながりの場」や「新たな取組みの創設」、居場所づくりなどの強化推進に取り組みました。

また、時代の変化や住民のニーズの移り変わりをいち早く察知し、それに即応できる体制の確立を目指し、経営基盤を計画的に整備していく必要がある為、令和6年度から令和9年度までの4年間、本会の経営方針を示した「中期経営計画」を策定し、「人事評価」では、職員の育成・職員の意識の向上と能力開発を目的として試験的に実施、令和6年度の本格導入に向けた法人基盤の強化に努めました。

本会事業推進に必要な財源確保では、子どもの居場所づくり推進を目的として令和4年度に立ち上げた「テーマ型募金」の「子どもの居場所応援募金」で、目標額を上回る浄財を有効に活用させていただきました。地域福祉活動を市民に広く周知を図っていくことは、今後もたいへん重要と考えており、これまでの紙媒体での情報発信に加え、ホームページやインスタグラム等のデジタル媒体を活用し広報活動の充実を図りました。

2 事業報告

1. 法人運営事業

財源：市補助金・社協会費・寄附金・雑収入等

収入額	177,374,757円	支出額	165,235,194円	差異	12,139,563円
<b>(1) 運営補助金事業</b>			<b>財源：市補助金</b>		
目的 内容	決算内訳				
	収入額	122,195,000円	支出額	122,195,000円	差異 0円
	社会福祉事業を効果的に推進するため、総務課・地域福祉課・在宅福祉課の3課を配置し、18名(内1名は生活福祉資金貸付事務事業より雇用)の正規職員が組織運営に関する事項及び自主財源の確保を図りつつ、自主事業及び各種受託事業の展開をとおして地域福祉を推進します。				
<b>(2) 法人運営事業 (自主事業)</b>			<b>財源：社協会費・寄附金・雑収入等</b>		
目的 内容	決算内訳				
	収入額	55,179,757円	支出額	43,040,194円	差異 12,139,563円
	組織のガバナンス強化、事業の透明性の向上や財務規律の強化など、社会福祉法人制度改革において求められている諸課題に対して、具体的かつ必要な対応を図り、本会の役割及び活動に対する地域住民の理解を促進します。社協の財務状況を職員一人ひとりが問題として認識し、法人全体で財政難を改善する戦略が必要です。 自主財源の確保として、財務状況を情報共有し、各種経費の節減や社協会費等を含めた新たな自主財源確保の取り組みについて、中期経営計画の下、役職員の協力体制による新たな試みを展開し、法人の健全経営に努めます。				
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 2. 取り組んだが不十分		4. 見直して取り組めた 1. 取り組めなかった		3. 現状維持

評価	事業（項目）					
4	1 社協会員加入促進（戸別会員・賛助会員・団体会員・特別会員）  今年度は、コロナ禍の影響等で閉店した事業所もあり、賛助会員と特別会員の依頼先の見直し整理を行い、目標にわずか届かない実績でした。次年度は、新規開拓も含め社協全役職員総出で会員募集活動を展開したい。					
	令和5年度実績	戸別会員 12,463世帯 6,231,200円	賛助会員 373人 372,596円	団体会員 45団体 225,000円	特別会員 106企業 735,000円	合計 達成率80.5% 7,563,796円
5	2 資金造成に係る関係団体等との連携  具志川なつメロ友の会(408,800円)、うるま歌謡友の会(800,000円)、ちよこ歌謡教室実行委員会(250,000円)、うるま市女性連合会主催チャリティー(200,000円)への協力があった。 ①実績合計1,658,800円					
4	3 寄附金募集の推進（寄附プログラムの作成等）  財政の厳しい中で、社協だより及びホームページ、Facebook等の見直しを行い、積極的に寄附募集を展開した。 ②寄附金実績額8,986,248円 ※令和5年度寄附金実績総額(①②の計) 10,645,046円					
評価・課題	社協会費は、令和5年度達成率80.5%となり、前年度比93.2% 546,084円の減収となった。今後は、本会の活動を知っていただき、応援団となっていただくよう会費の依頼先の見直し、強化を図っていく。 寄附金は、数百万円の高額寄附があったため、令和5年度達成率101.4%となり、前年度比213.0% 5,646,374円の増収となった。					
3	4 理事会及び評議員会の開催  (1) 理事会 ①第1回理事会 期日：令和5年6月6日(火)午後2時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第2交流室 参加者：理事11名 監事1名 議案事項 議案第1号 事務局長の解任及び選任について 議案第2号 第11期理事及び監事候補者の承認について 議案第3号 評議員候補者の選任について 議案第4号 評議員選任・解任委員の選任について 議案第5号 社会福祉法人うるま市社会福祉協議会役員及び評議員の報酬に関する規程の一部改正について 議案第6号 令和4年度事業実績報告書の承認について 議案第7号 令和4年度収支決算書の承認について 議案第8号 令和5年度第1回評議員選任解任委員会の開催日時及び場所について 議案第9号 うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会設置規程の制定について 議案第10号 令和5年度第1回評議員会の開催日時及び場所について 報告事項 報告第1号 社会福祉法人うるま市社会福祉協議会職員人事評価実施に係る報告について 報告第2号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について (令和5年2月～4月)  ②第2回理事会 期日：令和5年6月21日(水)午後4時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん3階 視聴覚室AB 参加者：理事13名 監事0名 議案事項 議案第1号 会長及び副会長、常務理事の選定について  ③第3回理事会 期日：令和5年9月25日(月)午前10時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室					

参加者：理事11名 監事0名

議案事項

議案第1号 第1回資金収支補正予算(案)について

議案第2号 経理規程の一部改正について

報告事項

報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況の報告について（令和5年5月～8月）

報告第2号 職制規程別表の一部改正について

④第4回理事会

期日：令和6年3月8日（金）午後2時

場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第2交流室

参加者：理事10名 監事1名

議案事項

議案第1号 定款の一部改正(案)について

議案第2号 給与規程の一部改正(案)について

議案第3号 非常勤職員、パートタイマー等就業規則の一部改正(案)について

議案第4号 令和5年度第2回資金収支補正予算(案)について

議案第5号 令和6年度事業計画(案)について

議案第6号 令和6年度資金収支予算(案)について

議案第7号 監事候補者選任(案)について

議案第8号 第三者委員の選任(案)について

議案第9号 評議員候補者の選任について

議案第10号 令和5年度第2回評議員選任解任委員会の開催及び場所について

議案第11号 令和5年度第3回評議員会の開催日及び場所について(案)

報告事項

報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況の報告について  
（令和5年9月～令和6年1月）

報告第2号 うるま市社会福祉協議会中期経営計画答申について

報告第3号 地域生活支援センター事業継続計画(BCP)について

3

(2) 評議員会

①第1回評議員会

期日：令和5年6月21日（水）午後1時30分

場所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B

参加者：評議員24名 監事1名

議案事項

議案第1号 第11期理事及び監事の選任について

議案第2号 令和4年度事業実績報告について

議案第3号 令和4年度資金収支決算書について

報告事項

報告第1号 社会福祉法人うるま市社会福祉協議会職員人事評価実施に係る報告  
について

報告第2号 うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会設置に係る報告について

報告第3号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について  
（令和5年2月～4月）

②第2回評議員会

期日：令和5年10月13日（金）午後2時

場所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B

参加者：評議員20名 監事0名

議案事項

議案第1号 令和5年度第1回資金収支補正予算(案)について

報告事項

報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について

報告第2号 職制規程別表の一部改正について

報告第3号 経理規程の一部改正について

③第3回評議員会

期日：令和6年3月19日（火）午後2時

場所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B

3	<p>参加者：評議員23名 監事0名</p> <p>議案事項  議案第1号 定款の一部改正（案）について  議案第2号 令和5年度第2回資金収支補正予算（案）について  議案第3号 令和6年度事業計画（案）について  議案第4号 令和6年度資金収支予算（案）について  議案第5号 監事候補者の選任（案）について</p> <p>報告事項  報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について  （令和5年9月～令和6年1月）  報告第2号 うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定の報告について</p>
評価・課題	理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会は計画通り実施できた。
2	<p>5 業務監査の実施</p> <p>①内部監査  期 日：令和5年5月27日（月） 午前9時～午後2時30分  場 所：うるま市健康福祉センターうるみん（2F デイサービス室）  監 事：與儀光二・大城 学  参加者：会長以下事務局長ほか職員</p> <p>②令和5年度社会福祉法人の指導監査（中部広域資料村圏事務組合）  期 日：令和6年2月8日（木）午前9時～午後4時  場 所：うるま市健康福祉センター（2F 第1会議室）  監 事：中部広域資料村圏事務組合（4名）  参加者：会長以下事務局長ほか職員</p>
評価・課題	各監査において、規程等の整理や適正な経理処理に努めるよう口頭による指摘があったことに対し、適正に運営できるよう改善を図っていく。
3	<p>6 管理職会議等の開催</p> <p>開催数 25回（代表的な内容ピックアップ）  協議事項 理事会・評議員会上程議案、主要行事の実施に関する事、諸規程の整備に関する事、事業の進捗に関する事、人事評価に関する事、中期経営計画に関する事 他</p>
5	<p>7 うるま市との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うるま市福祉部との意見交換会 年1回  内 容：本会が行う福祉事業の説明及び意見交換会</li> <li>・福祉政策課との会議 年4回 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ビジョン会議（福祉の経営戦略等）1回</li> <li>②福祉まつり準備会 3回  対 象：福祉政策課職員、社協中堅以下職員  内 容：うるま市の現状や将来想定される福祉課題について、共有し、課題解決するための企画を福祉まつりに組みこむことを目的に開催した。  市内の学生を福祉まつりに参画して頂くため、中学校1校、高等学校1校に学校へ訪問し協力を依頼した。</li> </ul> </li> </ul>
評価・課題	<p>法人運営に関する事項の役員・職員間の課題等の共有を図る機会につながった。引き続き適正運営に向け継続していく。</p> <p>また、福祉まつりでは、福祉部職員が事務局に入っていたことで、うるま市の福祉課題を共有することができた。また、将来の担い手となる若い世代の育成をテーマに、市内「子どもの居場所」による移動プレイパーク企画や子どもたちがつくる「うるま市へのメッセージ」アート作品づくりや防災国体報告発表、心のバリアフリー啓発ダンスを行い、うるま市の「福祉を考える」きっかけづくりができた。</p>

5	<p>8 関係機関・団体との連絡調整及び委員会等の設置</p> <p>①第1回うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会の開催  日 時：令和5年9月7日((木)) 午前10時  場 所：市健康福祉センターうるみん 2F デイサービス室  参加者：委員10名  議題  (1)報告事項 ① 諮問に係る市社協の現状及び課題について  ② 中期経営計画の期間について  ③ 今後のスケジュールについて</p> <p>②第2回うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会の開催  日 時：令和5年10月26日(木) 午前10時  場 所：市健康福祉センターうるみん 2F デイサービス室  参加者：委員8名  議題  (1)報告事項 ① 第1回策定委員会議事録の報告  (2)審議事項 ① 議案第1号「市町村社協経営指針に基づくチェックリスト」から見える課題  ア チェックリスト  イ 課題分析  ウ 事業活動計算書  ② 議案第2号「うるま市社協中期経営計画」の構成について  ア 中期経営計画の構成素案について</p> <p>③第3回うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会の開催  日 時：令和5年12月25日(月) 午前10時  場 所：市健康福祉センターうるみん 2F デイサービス室  参加者：委員6名  議題  (1)報告事項 ① 報告第1号 第2回策定委員会議事録  ② 報告第2号「うるま市社協職員の思いやりがいアンケート」結果について  ア アンケート集計結果  イ 自由記述に係る意見  (2)審議事項 ① 議案第1号「うるま市社協中期経営計画」の取り組み内容について  ア 計画の取り組み内容(案)</p> <p>④第4回うるま市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会の開催  日 時：令和6年2月21日(水) 午前10時  場 所：市健康福祉センターうるみん 2F デイサービス室  参加者：委員8名  議題  (1)報告事項 ① 報告第1号 第3回策定委員会議事録  (2)審議事項 ① 議案第1号議案「うるま市社協中期経営計画(案)」</p>
評価・課題	中期経営計画も策定され、先の4年間の社協運営の指針ができた。
5	9 福祉課題解決のための財源確保に向けた取り組みの推進 子ども居場所の充実を図るため、共同募金委員会にてテーマ型募金「子ども居場所応援募金」を展開し、資金確保を行った。 募金額：1,085,114円
5	10 社協だよりの発行(4回発行) 当初の計画通り年4回、発行部数43,000部を発行。今後も各課と連携しながら紙面内容の充実と福祉情報発信に努めていく。
5	11 ホームページ・SNS等による情報の発信 ホームページ、Facebook、インスタグラムに加え、令和5年度はYouTubeチャンネルを開設した。福祉に関する情報発信を随時行っているが十分ではないため、今後も市民の求める情報発信に努めていく。 ホームページ更新69回、Facebook更新86回、インスタグラム更新106回、YouTube更新2回

3	<p>12 うるま市広報誌等の活用          広報うるまに寄附者の掲載や各種事業、イベントの掲載を依頼した。</p>
4	<p>13 うるま市福祉まつりの実施(表彰・感謝含む)</p> <p>(1)実行委員会の開催          ①第1回実行委員会          日時：令和5年7月21日（金）午前10時          場所：健康福祉センターうるみん3階 ホール          出席者：15名          ②第2回実行委員会          日時：令和5年9月28日（木）午前10時          場所：健康福祉センターうるみん3階 ホール          出席者：19名          ③第3回実行委員会          日時：令和6年1月30日（火）午前10時          場所：健康福祉センターうるみん3階 ホール          出席者：14名</p> <p>(2)2022年度うるま市福祉まつりの開催          日時：令和5年11月18日（土）午前9時半～午後5時          会場：うるま市健康福祉センターうるみん及び周辺          来場者：延5,000人          内容：感謝・表彰（38個人、17団体）          ステージ（28団体）、販売（30団体）、パネル展示（27団体）          体験（eスポーツ、草遊び、ボッチャ体験、アロマセラピー、消しゴムスタン          プ、かめば号など）          その他催し（助成金申請書き方講座、セラピー犬体験、闘牛体験、          フィットネスセンター無料体験レッスン、にこにこキッズフェスタなど）</p>
2	<p>14 共同募金委員会の運営</p> <p>令和5年度から各地区推進委員会を廃止したため、市共同募金委員会および市共同募金委員会審査委員会のみ開催となった。審査委員会では、初の公募枠の福祉団体助成の審査を行い、適切な配分になるよう審査を行った。</p> <p>(1)第1回うるま市共同募金委員会          日時：令和5年8月22日（火）午前10時          場所：健康福祉センターうるみん 視聴覚室A          内容：報告第1号 委員の任期満了に伴う、委員及び監事の選任の報告について          報告第2号 令和5年度助成報告について          議案第1号 審査委員の任期満了に伴う、委員の選任（案）について          議案第2号 令和4年度事業報告について          議案第3号 令和4年度決算報告について</p> <p>(2)第2回うるま市共同募金委員会          日時：令和5年9月5日（火）午後2時          場所：健康福祉センターうるみん 第2交流室          内容：議案第1号 うるま市共同募金委員会会長及び副会長の互選（案）について          議案第2号 令和5年共同募金運動事業計画（案）について          議案第3号 令和5年度資金収支予算（案）について          報告第1号 歳末事業について</p> <p>(3)令和5年度共同募金運動出発式          日時：令和5年10月2日（月）午前10時          場所：うるマルシェ          参加者：うるま市長、市議会副議長、教育長、民生委員及び福祉団体、関係機関          終了後街頭募金を実施</p> <p>(4)令和5年度うるま市共同募金委員会 第1回審査委員会          日時：令和6年3月22日（金）午後2時          場所：健康福祉センターうるみん デイサービス室          内容：令和6年度助成希望団体から質疑応答及び書類審査を得て審査を図った。          団体数：11団体          事業数：赤い羽根共同募金19事業、赤い羽根テーマ型募金1事業、歳末たすけあい          募金1事業</p>

2	(5) 令和5年度 共同募金実績					
		募金種別	赤い羽根		歳末たすけあい	
		戸別募金	6,039,505円	【80件】	3,662,840円	【79件】
		職域募金	1,302,457円	【157件】	915,919円	【175件】
		街頭募金	265,882円	【8件】	—	—
		学校募金	859,657円	【24件】	—	—
		個人大口募金	1,336,618円	【215件】	370,367円	【16件】
		法人募金	1,723,000円	【149件】	1,045,000円	【59件】
		イベント募金	345,000円	【2件】	166,164円	【1件】
		その他募金	241,090円	【18件】	15,915円	【4件】
		県共募取扱い団体	902,471円	—	—	—
	合計	11,930,566円	【653件】	6,176,205円	【334件】	
4	15 共同募金通信の発行 物価高騰による印刷費値上がりにより通信の発行はできなかったため、県共同募金のチラシを活用し共同募金運動の周知を図った。募金者に分かりやすい紙面づくりに努めた。					
3	16 共同募金運動の協力支援 自治会の協力のもと戸別募金をはじめ、個人事業所や地域の法人等の大口まわりを実施した。また、高校生や地域イベント等で街頭募金を自主的に実施し、募金箱及び資材等を提供し、新たな募金運動が広がってきている。 2年目となるテーマ型募金「子ども居場所応援募金」は、令和5年11月から沖縄銀行の協力のもと街頭募金、イベント会場での募金箱設置協力をいただくなど、多くの市民や企業にご支援いただきながら募金活動を行うことができた。 令和5年度は、3つの大規模な災害が起きた事をうけ、災害たすけあい募金の募集を行った。県内でも台風第6号で甚大な被害を受け、特に大きな被害があった令和6年度能登半島地震もあわせ、総額1,450,875円の募金を募ることができた。					
3	17 地域福祉活動計画の推進 各事業担当者による第4次地域福祉活動計画令和4年度事業評価を行い、市の地域福祉計画懇話会にて懇話会委員（兼うるま市地域福祉活動計画評価検討委員）へ報告した。 また、地域福祉活動計画の見直しや次期計画の参考にするため、地域住民を対象とした地域懇談会を開催した。					
5	18 地域懇談会や「うるま市地域福祉活動計画評価検討委員会」の設置による計画の評価  地域懇談会の実施 ①具志川地区：令和5年7月28日（金）・参加者16名 ②勝連地区/与那城地区：令和5年10月5日（木）・参加者5名 ③石川地区：令和5年10月19日（木）・参加者16名 計画評価に係る地域懇談会は、住民主体の地域福祉活動推進に不可欠であり、継続して実施する必要がある。					
3	19 福祉団体助成事業（うるま市自治会長連絡協議会） 市自治会長連絡協議会の効率的な活動ができるよう助成金を活用していただいている。 うるま市自治会長連絡協議会 120,000円（法人）					
3	20 福祉協力会助成事業 57ヶ所の各行政区福祉協力会、2ヶ所の団地自治会へ助成を行い、各課と連携しながら活動支援を行った。各福祉協力会では、地域ニーズに応じた工夫をこらした事業を展開しており、福祉の推進につながっている。					
4	21 各種調査活動の実施 うるま市社協の職員の思いやりがいアンケート（令和5年11月1日～11月15日）					
5	22 相談援助実習の受入れ（大学生等） 社会福祉士及び精神保健福祉士相談援助実習の受け入れ 社会福祉士相談援助実習：11名 （沖縄大学、沖縄国際大学、琉球リハビリテーション学院、沖縄統合医療学院、					

5	<p>沖縄ソーシャルワーク専門学校) 精神保健福祉士相談援助実習：2名（沖縄大学、沖縄国際大学）</p>																																																				
4	<p>23 職場体験学習の受入れ 市内の中学校からの依頼を受け、職場体験の受入れを行った。 高江洲中学校（2名）、具志川中学校（1名）</p>																																																				
4	<p>24 その他、福祉に関する必要な事業等への協力及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラオケ機材の貸出（2台）年間100回</li> <li>・貸出車両（令和6年2月開始 10名乗り 2台） 具志川なつメロ友の会及びうるま歌謡友の会からの寄附金を活用し、令和6年2月より貸出車両2台の運用開始した。年間25回</li> </ul> <p>支所窓口の利用状況（令和5年5月1日～週2日開設）</p> <table border="1"> <tr> <td>石川支所</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>(火・金)来客</td> <td>14人</td> <td>6人</td> <td>7人</td> <td>7人</td> <td>7人</td> <td>2人</td> <td>6人</td> <td>7人</td> <td>6人</td> <td>7人</td> <td>7人</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>勝連支所</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>(月・木)来客</td> <td>14人</td> <td>13人</td> <td>5人</td> <td>12人</td> <td>1人</td> <td>12人</td> <td>5人</td> <td>5人</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>85人</td> </tr> </table>	石川支所	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(火・金)来客	14人	6人	7人	7人	7人	2人	6人	7人	6人	7人	7人	76人	勝連支所	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(月・木)来客	14人	13人	5人	12人	1人	12人	5人	5人	6人	6人	6人	85人
石川支所	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																									
(火・金)来客	14人	6人	7人	7人	7人	2人	6人	7人	6人	7人	7人	76人																																									
勝連支所	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																									
(月・木)来客	14人	13人	5人	12人	1人	12人	5人	5人	6人	6人	6人	85人																																									
4	<p>25 事業評価及び組織体制等の見直し</p> <p>事業評価</p> <p>中期経営計画を策定するにあたり、「市町村社協経営指針に基づくチェックリスト」を活用し、正職員間で社協の現状及び課題を抽出することにより、今後における福祉課題の解決に向けた指針となった。</p> <p>組織体制等の見直し 人事異動：令和5年7月1日</p> <p>事務局長の内部投与及び介護事業所閉鎖に伴い職員を本所勤務とし、石川、勝連、与那城支所とも各担当を兼務で置き、福祉団体の支援及び相談業務等の体制をつくり対応。</p>																																																				
4	<p>26 業務調整会議、連絡会等の実施</p> <p>①子どもの居場所ネットワーク連絡会（再掲） 令和5年6月22日（木）参加者：26名 令和5年12月14日（木）参加者：19名</p> <p>②社会福祉法人等ネットワーク連絡会 令和5年6月28日（水） 参加者：8法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 2法人）・12名 内 容：令和4年度報告と令和5年度活動について うるま市の地域(福祉)課題についての意見交換 令和6年1月18日（木） 参加者：8法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 2法人）・9名 内 容：令和5年度の活動報告と振り返り 今後の活動に向けての意見交換</p> <p>③食の支援あり方検討会 令和5年9月29日 参加者：7名（社協、子ども政策課、パーソナルサポートセンター フードバンクセカンドハーベスト沖縄、NPO法人まくとう）</p> <p>④就労支援プロジェクト 令和5年5月31日（水）参加者：7名 令和5年7月26日（水）参加者：7名 （社協、パーソナル、サポートセンター、就活サポートであえ〜る）</p>																																																				
3	<p>27 社会福祉士、精神保健福祉士等の専門職員の採用</p> <p>社会福祉士 正規職員1名 非常勤職員3名 社会福祉主事 3名</p>																																																				
3	<p>28 資格取得支援</p> <p>養成校入校のための推薦書及び実務経験証明書発行 対象者なし スクーリング等の養成課程に係る特別休暇付与 対象者なし 受験に係る休暇の付与等環境支援 7名（内 合格者2名）</p>																																																				



4	29 職員学習会・研修の機会の提供（実施・派遣）								
	①「社協の実践力UPセミナー」の実施 令和5年5月2日（火）午後2時～午後4時・参加者 43 名 講師：NPO法人夢WALK 社会福祉士 赤嶺 舞 氏 ②「職員がつくる社協のお仕事成長戦略作戦会議」の実施 （対象：40代以下の中堅・若手正職員） 令和5年10月24日（火）午後3時～午後5時・参加者7名 令和5年11月20日（月）午後3時～午後5時・参加者7名 令和5年12月11日（月）午後6時30分～午後8時・参加者7名 令和6年 2月14日（水）午後3時～午後5時・参加者6名 講師：(株)ケイオーパートナーズ キャリアアドバイザー 幸喜 穂乃 氏 ③職員防災研修 日 時：令和5年12月20日（水）午前9時30分～正午 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室 参加者：21名 内 容：災害発生時の対応について（被害想定や避難所運営、炊き出しなど） 講師 NPO法人まくとうー 代表理事 市原 信行 氏								
3	30 苦情解決の体制づくり 第8期第三者委員の選任（任期：令和6年3月8日～令和8年3月9日） 1. 堀 晋輔（学識経験者） 2. 伊計 昇明（社会福祉士） 3. 上門 はるみ（学識経験者）								
2. 福祉センター運営事業			財源：市受託事業・介護保険事業・雑収入等						
収入額	1,277,540円	支出額	1,277,540円	差異	0円				
目的内容	社協が行う各種事業を実施することで、地域福祉の推進と住民への福祉サービスの充実に必要な環境整備等を行う。								
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった								
事業（項目）									
与那城社会福祉センターの管理運営									
5	区分	利用回数	利用時間	利用人数	利用料金	備 考			
	行政関係	14回	21時間	144人	免除	市建築工事課			
	行政関係	1回	4時間	40人	免除	地域包括支援センター			
	市内福祉団体	39回	150時間	604人	免除	社協関連事業名等	利用回数	利用時間	利用人数
						社協事業	3回	5時間	17人
						ミニデイ	12回	32時間	368人
						民児協	15回	29時間	146人
						老人クラブ	1回	5時間	30人
						ボランティア団体	0回	0時間	0人
						相談支援	1回	2時間	6人
	デイサービス	25回	200時間	339人					
	一般市民（個人・団体）	6回	44時間	101人	0円	個人・団体事業名等	利用回数	利用時間	利用人数
市内						7回	49時間	106人	
屋慶名区						6回	44時間	101人	
一般市街	1回	5時間	5人	3,000円	市内	その他	0回	0時間	0人
					市外	1回	5時間	5人	
合 計	61回	224時間	894人	3,000円	うるま市社会福祉センター条例第23条による免除				
評価・課題	社協介護保険事業廃止により、福祉センター運営に係る光熱水費の捻出が困難となっている。与那城社会福祉センター改修で、工事完了までの間は一般利用ができない状況である。								

3. 障害者社会参加促進事業

財源：市受託事業

(1) 障害者社会参加促進事業

収入額	10,163,448円		支出額	10,163,448円		差異	0円		
目的内容	障がい者が有する能力及び適正に応じ、日常生活又は社会生活を営むことができるよう地域の特性や利用者の状況に応じた事業を効率的かつ効果的に実施し、障がい者等の福祉の増進を図ります。								
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった								
5	事業(項目)								
	1 点字・声の 広報等発行事業	決算内訳							
		収入額	772,731円	支出額	772,731円	差異	0円		
視覚障がい者の地域生活をするうえで必要な各種情報の発信(広報誌等)を定期的に行い、視覚障がい者の社会参加の促進を行った。 ①点字訳: 広報うるま252部/社協だより62部 /カレンダー22部 利用者数(施設)21名 *個人16名、施設5 ②音声訳: 広報うるま207本/社協だより69本 利用者数(施設)18名 *個人13名、施設5									
5	2 手話奉仕員 養成講座事業	決算内訳							
		収入額	781,038円	支出額	781,038円	差異	0円		
聴覚障がい者とのコミュニケーションの支援者として期待される手話奉仕員の養成を行った。 ①手話奉仕員養成講座(入門) 1. 受講者数: 16名 *修了者数9名 2. 実施期間: 令和5年6月15日(木)~令和6年2月1日(木) 午後2時~4時(全30回) 3. 講師: 高江洲 勝美(ろう講師)、赤嶺 典子(聴講師)									
5	3 福祉機器 リサイクル事業	決算内訳							
		収入額	99,611円	支出額	99,611円	差異	0円		
不要になった福祉機器を再利用し、貸し出しを行う事により在宅療養者の日常生活のサポートと制度活用が困難な方々に対して応急的支援を行った。									
5	福祉機器		件数	地区内訳	件数				
	車いす		123件	具志川地区	110件				
	松葉杖		6件	石川地区	29件				
	四点歩行器		14件	勝連地区	10件				
	シャワーチェア		21件	与那城地区	15件				
	ポータブルトイレ		0件						
	合計		164件	合計	164件				
5	4 リフト付き福祉 バス運行事業	決算内訳							
		収入額	5,567,000円	支出額	5,567,000円	差異	0円		
移動が困難な障がい者等の外出支援のため、福祉バスを運行することにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を行った。 ①実利用者数: 32名(登録者36名)									
5	利用内容(延回数)		障がい種別(延回数)		地区数(延回数)				
	病院受診等	203回	視覚障がい	20回	具志川	200回			
	買い物等	76回	上肢・下肢障がい	106回	石川	32回			
	公共施設利用(諸手続き)	6回	聴覚障がい	25回	勝連	58回			
	趣味活動	40回	内部障がい	106回	与那城	35回			
	介添え	64回	脳卒中(片麻痺)	68回					
	合計	389回	合計	325回		325回			

5 要約筆記者派遣事業	決算内訳					
	収入額	2,943,068円	支出額	2,943,068円	差異	0円
5	聴覚障がい者等の意思疎通を支援するため要約筆記者の派遣を行った。 ①要約筆記奉仕員：登録者数12名					
	派遣内容		件数	派遣人数		
	当事者活動（団体）		43件	7名		
	公的機関（訪問相談）		3件	（延派遣者数69名）		
	合 計		46件			
評価・課題	市内の障がい者が地域で生活していくうえでの支援が拡充できた。奉仕員養成講座における点字訳では3名の増（4年度講座修了者8名中）で活動の活性化に繋がった。課題としては朗読奉仕員の若手を含む担い手の育成と手話奉仕員養成講座および要約筆記者派遣事業の強化に取り組む必要がある。					

#### 4. ふれあいコール事業(市受託事業)

財源：市受託事業

収入額	1,207,250円	支出額	1,207,250円	差異	0円
目的内容	独居高齢者に対し定期的に電話をかけることにより、その健康状態の確認と心のふれあいの提供及び緊急事態発生時の迅速な通報等を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業（項目）				
	① 実施日：原則 毎週 月・水・金（週3回）午前中		② 利用実績：4,390件		
	③ 実人数：37名（具志川20名、石川7名、勝連4名、与那城6名）		④ コール員：2名		
評価・課題	一人暮らしの高齢者を対象とし、電話による定期的な健康状態の確認や利用者との心のふれあいを図り、通話不通時の迅速な通報等、関係者と連携し安否確認が取れた。情報の共有において、包括支援センターと密に連携を図る必要がある。				

#### 5. 地域活動支援センター事業

財源：市受託事業

収入額	38,255,360円	支出額	30,996,222円	差異	7,259,138円
(1) 障害者地域活動支援センター事業（市受託事業）					
目的内容	障がい者がその有する能力に応じ自立した生活が送れるよう、生活相談支援を行うとともに、社会参加活動や創作活動支援をとおして、自立意欲を高め社会復帰と社会参加の促進を図ります。				
1 地域活動支援センター事業	決算内訳				
	収入額	11,784,066円	支出額	11,207,450円	差異 576,616円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業（項目）				
	来所者数を1日概ね20名を目標に社会参加活動や創作活動に取り組み、令和4年度10.7名 令和5年度12.5名と目標には達成しないものの少しずつ利用者数は伸びてきている。				
評価・課題	福祉サービス事業所の増加により利用者数は減少傾向であったが、医療機関や計画相談等への事業説明などとおして、利用者数は回復してきている。日中の居場所や社会参加等を希望する方の障がい福祉に関する調査でも、地域活動支援センター利用を希望するという回答者が多く、今後も周知を強化し利用につなげたい。				
(2) 障害者相談支援事業（市受託事業）					
目的内容	障がい者（児）が住み慣れた地域で希望する生活が実現できるよう生活相談支援を総合的かつ継続的に行います。				

1 障害者相談支援事業		決算内訳					
		収入額	10,878,651円	支出額	10,878,651円	差異	0円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった						
3		事業(項目)					
3		令和5年度は相談員2名体制にて事業実施。 当初計画での相談見込み件数270名に対し、242名と見込み数より少なかったものの、関係機関調整の増加など、相談内容も複雑多様化している状況。					
評価・課題	相談者の取り巻く環境が以前より複雑化しており、関わる関係機関も多く相談員1人で関係機関調整を行うため業務量が増えている。 基幹相談支援センターへの人事異動に伴い、相談員が1名欠員となっている状況。職員の増員による負担軽減が急がれる。有資格者の確保に向けて今後も職員採用での課題があり。						
(3) 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業 (自主事業) ※ 事業内容は同じ							
目的内容	障がい者(児)の自立支援を目指し、利用者のニーズに応じた適切なサービス等利用計画を作成し、必要な支援を行います。						
1 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業		決算内訳					
		収入額	15,592,643円	支出額	8,910,121円	差異	6,682,522円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった						
3		事業(項目)					
3		契約者数：指定特定(者)125名 指定障害児46名 当初計画より契約者数は29名少なくなっているが、モニタリング回数の見直しや、研修の受講など行いながら加算の取得を行うなど適正な人数で運営できる工夫を行った。 適正受持人数・・・約1人70名(国等の資料より)					
評価・課題	研修などへの参加を行い、機能強化加算や特定加算をとることができた。本会の相談支援専門員1名が担う相談受持件数は一人平均86件と国の適正受持件数の1.2倍となっており、相談支援専門員の育成による人材確保や加算取得のための環境整備、モニタリング頻度の調整等、職員の過重負担軽減が必要である。						

6. 生きがい活動支援通所事業				財源：市受託事業			
収入額	17,880,500円	支出額	17,880,500円	差異	0円		
(1) 生きがい活動支援通所事業(地域型)：ミニデイサービス(市受託事業)							
目的内容	高齢者の生きがいと社会参加を促進し、社会的孤立の解消、自立生活の助長及びフレイル予防や口腔ケアなどの健康増進を図りつつ、気になる参加者の現状把握に務め、福祉推進員と情報を共有し協働で活動を実施します。また、主体的にミニデイ活動を運営する福祉推進会を支援し事業の推進を図る。						
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった						
5		事業(項目)					
①実施状況と総参加者数(延べ)			具志川	石川	勝連	与那城	合計
		実施区数	30	15	5	11	61
		実施回数	492	300	92	140	1,024
		延参加者数	8,472	3,914	1,603	1,918	15,907
		参加者平均(人)	17.2	13	17.4	13.7	15.5
②参加者数(延べ)対象者・推進員の比較			具志川	石川	勝連	与那城	合計
		対象者数	5,765	2,566	862	1,311	10,504
		〃 平均(人)	11.7	8.6	9.4	9.4	10.3
		推進員数	2,707	1,348	741	607	5,403
		〃 平均(人)	5.5	4.5	8.1	4.3	5.3

評価・課題	<p>昨年5月コロナ感染症の「5類感染症」移行後、参加者の体調を気遣い、時間短縮での実施など、ほぼ全福祉推進会で実施。総参加者数（対象者＋推進員）は前年比で増ではあるが、コロナ感染症以前と比較すると減少している状況であり、対象者のフレイル状態の進行や社会的孤立の解消など予防と対策への取組みを行う。</p> <p>また、推進員の高齢化による担い手の確保についても関係者等と課題を共有し、自主的に活動できるよう地域支え合い活動への意識づけを行い、地域の力で解決できるよう継続的に取組むことを確認できた。自主活動の現在の状況については、24推進会が2回自主で実施。</p>
-------	--

### 7. 福祉金庫貸付事業（自主事業）

財源：社協会費・寄附金

収入額	839,215円	支出額	488,000円	差異	351,215円
目的内容	低所得世帯に対し、生活維持のため必要な資金を応急的に貸付けることにより、生活意欲の助長促進を図るとともに、必要な相談支援を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業（項目）				
	<p>緊急度が高く、生活福祉資金等公的な貸付を受けることが困難で、切迫した状況にある世帯へ生計や修学、医療のための資金の貸付と関係機関と連携した相談支援を行った。</p> <p>・貸付件数：12件</p>				
評価・課題	<p>実施要綱を見直し、貸付にあわせて関係機関による支援を受けることとしたことで、貸付け後の自立を見据えた相談支援を行うことができた。</p> <p>不安定就労や物価高騰の影響により、生活困窮世帯の課題はますます厳しくなると予想されるため、引き続き関係機関と連携しながら、迅速に対応できるようにしていく。また、そのための原資の確保が必要。</p>				

### 8. 生活福祉資金貸付事務事業

財源：県社協受託事業

収入額	24,535,893円	支出額	21,936,547円	差異	2,599,346円
目的内容	低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯を対象に必要な資金を他から受けることが困難な世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業（項目）				
	<p>低所得世帯等に対し、生活の安定や経済的自立を支援するための相談や必要な資金の貸付の支援を行った。</p> <p>・（本則貸付に関する）相談件数：583件</p> <p>・資金種別貸付進達件数：緊急小口資金 12件 福祉資金 4件 教育支援資金 13件</p> <p>・コロナ特例借受人への見守り（アウトリーチ）相談支援：3,221件</p> <p>・関係機関との会議・研修会等への参加：32回</p> <p>・民生委員との連携 貸付制度における民生委員の役割等についての理解と協力を求め、連携して取り組んだ。</p>				
評価・課題	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会・経済活動は再開したが、不安定就労や物価高騰の影響により、生活困窮者の生活再建の課題は、いまだ深刻な状況が続いており、低所得世帯等からの貸付の相談は、引き続き後を絶たない。加えて、コロナ特例貸付で返済が困難な借受人からの返済免除や猶予の相談も増加している。返済猶予の借受人や返済が遅延している借受人等への面談・訪問等のアウトリーチによる生活再建に向けた支援を強化し、関係機関へのつなぎなど連携した支援が必要。</p>				

### 9. 権利擁護センター事業

財源：市受託事業

収入額	12,196,469円	支出額	9,692,561円	差異	2,503,908円
目的内容	認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービス利用援助を行います。また、権利擁護に関する普及及び啓発活動を実施し、対象者が地域で安心して生活できるよう環境づくりに努めます。併せて、市民の成年後見制度の理解促進や利用に関する相談支援を推進します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				

	事業（項目）
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護に関する相談及び支援：市受託3,948件、県社協受託3,989件</li> <li>・成年後見制度の利用に関する相談支援：8件（問合せ4件、相談支援4件）</li> <li>・福祉サービス利用援助事業の実施：市受託3,912件、県社協受託3,983件</li> <li>・権利擁護の普及及び啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>①福祉まつりで日常生活自立支援事業及び成年後見制度パンフレットを配布</li> <li>②地域包括支援センター具志川ひがし・具志川にしと共催で権利擁護相談会を開催</li> <li>③社協だよりへの掲載（日常生活自立支援事業及び成年後見制度について）</li> </ul> </li> <li>・待機者解消に向けた取り組み（新規契約）：4件（市受託1件 県社協受託3件）</li> <li>・生活支援員養成講座（全2回）の開催  日 時：令和5年12月7日（木）午後2時～午後4時  令和5年12月8日（金）午後2時～午後4時  場 所：うるま市勝連地区公民館2階 研修室1・2  参加者：延9名（内、1名新規で委嘱）  内 容：講義（生活支援員の基本姿勢、生活支援員のお仕事、認知症高齢者への支援、成年後見制度について）</li>   <li>・支援員フォローアップ講座の開催  日 時：令和6年3月7日（木）午後2時～午後4時30分  場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室  参加者：6名  内 容：講義、意見交換（事例から生活支援員の基本姿勢や役割を学ぶ、精神障がい者の地域生活を支えよう）</li> </ul>
評価・課題	<p>緊急性を考慮しながら、4名の新規契約を結ぶことができた。今後も緊急性を考慮し、待機解消に努めていく。権利擁護の普及啓発に取り組んだ事で、成年後見制度の利用相談や問い合わせが増加した。今後も権利擁護に関する幅広い相談に対応できるよう、研修会への参加等専門員の資質向上に取り組んでいく。養成講座後、生活支援員として新たに1名の登録があり、引き続き各地区の生活支援員の担い手確保やフォローアップのための研修体制を整備していく必要がある。</p>

10. 共同募金配分金事業

財源：共同募金配分事業

収入額	13,731,867円	支出額	13,731,867円	差異	0円
-----	-------------	-----	-------------	----	----

(1) 福祉団体育成活動支援（自主事業）

財源：共募配分金

目的内容	福祉団体の現状や課題を共通理解しながら、目的に沿って自主的・主体的活動を支援します。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業（項目）	
5	福祉団体助成事業	<p>市内の福祉活動の振興を図るために、福祉活動を行うことを目的とする団体活動へ助成金を交付し、団体の活性化と地域福祉の向上を図りました。</p> <p>活動助成金総額 4,284,212円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うるま市民生委員児童委員協議会 1,060,000円（共募）</li> <li>うるま市老人クラブ連合会 450,000円（共募）</li> <li>うるま市身体障がい者協会 450,000円（共募）</li> <li>うるま市母子寡婦福祉会 438,431円（共募）</li> <li>うるま市ボランティア連絡協議会 120,000円（共募）</li> <li>うるま市手をつなぐ育成会 300,000円（共募）</li> <li>うるま市更生保護女性会 100,000円（共募）</li> <li>うるま市福祉まつり実行委員会 1,571,496円（共募、法人）</li> </ul>
5	活動支援	<p>①うるま市老人クラブ連合会  新型コロナウイルス感染症の第5類移行により、令和5年度は、感染防止対策を行いつつ、コロナ禍前の活動にほぼ戻ることができ、仲間づくりを通して、生きがいと健康保持増進を行うとともに、会員の知識と経験を地域で活かす活動を推進する当該団体の自主的な活動に向けた支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第17回うるま市老人クラブ大会 令和5年7月21日（金）社協会長出席</li> <li>・第17回うるま市老連芸能大会 令和5年10月20日（金）社協会長 //</li> <li>・令和5年度うるま市老連年末交流会 令和5年12月18日（月）社協会長 //</li> </ul>

5	活動支援	②うるま市身体障がい者協会 ・第17回うるま市身体障がい者協会総会 令和5年5月28日(日) 社協会長参加 ・第59回沖縄県身体障害者スポーツ大会 うるま市選手団結団式 令和5年8月26日(土) 社協会長 〃 ・第59回沖縄県身体障害者スポーツ大会 令和5年10月14日(土) 社協会長 〃 ・    "    フライングディスク競技 令和5年10月1日(日)
		③うるま市母子寡婦福祉会 ・第18回母子寡婦福祉会総会 令和5年5月21日(日) 社協会長参加 ・令和5年度母と子の楽しいクリスマス会 令和5年12月10日(日) 社協会長 " ・令和5年度ランドセル贈呈式 令和6年1月21日(日) 社協会長 "
評価・課題	令和5年度は、令和6年度から始まる福祉団体助成の公募助成に向け要綱の見直しを行い、新しい地域課題に取り組む団体の活動支援の基盤を整えることができた。 令和5年度は、助成金説明会が未実施となったが、公募助成を実施に向け助成金の周知を強化していくことが必要となる。 法人運営事業より支出の福祉協力会助成金事業においては、類似の助成事業もあることから、令和6年度においては事業の見直しや統合を検討していく。	

## (2) ①児童福祉活動

目的内容	児童の健全育成活動や児童問題への関わりをとおして、地域で支える支援に取り組みます。
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
3	事業(項目)
	各単位民生委員児童委員協議会と協働して、児童福祉週間イベント及びこいのぼり掲揚式を開催した。 ①具志川地区(具志川東民児協・具志川西民児協共催) 日時: 令和5年4月26日(水) 午前10時～午前11時 場所: うるま市健康福祉センターうるみん3階 ホール 参加者: 70名(園児) ②与那城地区(与那城民児協共催) 日時: 令和5年5月2日(火) 午前10時～午前11時 場所: うるま市立与那城小学校 校庭 参加者: 100名(園児・児童) ③勝連地区は集合型イベントを中止し、勝連民児協と協働で、地区内の保育園等を訪問、手作りこいのぼり等を配布し、啓発を行った。
評価・課題	今後のイベントの目的や実施方法については、民生委員児童委員協議会と協議しながら、各単位民生委員児童委員協議会の主体性を尊重しながら、見直しも含めて検討していく。

## ② 子ども・子育て支援ネットワーク事業

目的内容	うるま市の「すべての子ども達の人権や健やかな成長」を市民が考える機会をつくとともに、子どもや家庭、それを応援する環境づくりを推進します。
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
4	事業(項目)
	子ども未来フェスタinうるまの開催 日時: 令和6年2月11日(日) 午前10時～午後3時 場所: うるま市健康福祉センターうるみん正面玄関及び2階オープンフロア 来場者: 延2,000名 内容: 感謝の集い(子どもの居場所等へ支援している企業への感謝状贈呈) フリーマーケット、制服リユース、ゲームコーナー、綿あめづくり体験等  子どもの居場所ネットワーク連絡会(再掲) ①令和5年6月22日(木) 午前10時～正午・参加者: 26名 ②令和5年12月14日(木) 午前10時～正午・参加者: 19名

評価・課題	<p>子ども未来フェスタは、子ども達や家族連れなど多くの来場があり、子ども達にとって良い体験の場となった。また、居場所の子ども達が運営するブースや居場所紹介のパネル展示等もあり、うるま市の子どもの居場所の啓発にもなった。</p> <p>今後も子どもの居場所ネットワーク連絡会を開催しながら、子どもの居場所活動者と協働し、「子どもたちをまんやかに」した事業を推進していく必要がある。</p>
-------	--

### (3) 母子・父子福祉活動

目的内容	一人親世帯等の新入学児童に対して激励金を支給し、母子・父子世帯等の福祉向上に努めます。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業（項目）	実施内容
	1 一人親世帯等新入学児童激励事業	令和5年度は、98世帯（98名）へ激励金の支給を行いました。（前度比較28世帯（28名）減）
評価・課題	<p>新入学の出費が重なる時期に激励金を支給する事で、微力ではあるが母子・父子世帯への福祉向上につながっている。</p> <p>同様な給付を行っている他団体もある事から、関係機関と協議しながら事業の方向性を検討する。</p>	

### (4) ①ボランティア育成活動

目的内容	<p>地域の中で安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりができる“お互いさま”の活動を提案しながら「いつでも・どこでも・誰でも」活動に参加できる体制や地域の繋がりを強化し、安心して地域活動が行える体制づくりに取り組みます。また、ボランティア活動や学習の機会をとおして社会の「困った」ことに気づき、地域の一人ひとりが主体的に取り組める地域づくりを行う。</p>	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業（項目）	
4	<p>①福祉学習プログラムのコーディネート及び講師派遣（小・中・高校） 市内小学校等の児童・生徒を対象に福祉への理解と関心を高め、人間性豊かな福祉のまちづくりに資する事を目的に福祉講話やアイマスク・点字体験等を行い、児童・生徒へ福祉に関する気づきや行動についての学びの場を提供。また、地域に暮らす障がいのある方、地域の方を講師として派遣した。 ・実施回数：延べ67回、21校</p> <p>②ボランティア団体への活動費助成 地域の課題解決に向け、一層の充実や継続が必要な活動、先駆的でユニークな活動・調査研究を行っているボランティア団体に対して助成を行い、市内のボランティア活動の活性化、地域福祉の推進を図った。 3万円コース（1団体） 助成団体：凸凹（でこぼこ） 10万円コース（4団体） 助成団体：NPO法人まくとうー、食と農の学び舎BASE、うるま市文化財ガイドの会 ありがとう</p> <p>③ボランティアサロンの設置及びボランティア活動支援 週2回（水・金）ボランティア活動の拠点や交流・協働の場として、ボランティア団体や個人等が主体的かつ気軽に利用できる場としてボランティアサロンを設け、ボランティアの体制整備・強化や活動支援を行った。 週2回（水・金）延べ利用回数：139回</p> <p>④ボランティア連絡協議会の活動・年間行事支援 役員会、理事会等の支援：15回 総会、視察研修、年末交流会等の支援</p>	
評価・課題	<p>小学校等への福祉教育プログラムのコーディネート数は、目標であった20校を上回り、LGBTQについてなど新たなプログラムも実施できた。今後も、継続して教育機関、地域と連携した福祉教育を推進していく。</p> <p>ボランティア団体活動助成事業では、助成団体5団体の内4団体が子ども支援に取り組む団体となり、子ども支援への関心の高さがうかがえた。助成事業をとおしてボランティア団体との連携を図り、地域課題の解決に向けたボランティア活動の支援に繋がった。継続して地域課題解決に向けた取り組みが必要であり、企業、団体、ボランティア団体・個人と連携を強化し、地域福祉活動の支援を展開していく。</p>	



## ② 地域づくり支援事業

目的 内容	地域において、支援を必要とする人々の生活を支えるために、住民の主体的な活動は大きな力となります。出前講座等をおして、活動の広がりや充実を図りながら、支援を必要とする世帯の日常的な見守りや、引きこもりなど課題を抱えた方の居場所づくりをはじめ地域の支えあいの環境整備を、ボランティア団体や関係機関・団体、企業等と協働して取り組みます。
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
	事業（項目）
4	<p>住民同士のつながりを基盤とした住民による多様な居場所づくりの推進と活性化及び子ども達が安心して生活できる地域の居場所づくりの推進と生活困窮世帯の孤立防止や子ども達の健やかな成長を地域で支える環境づくりを目指し、活動費助成や活動支援を行った。</p> <p>①ふれあい・いきいきサロンづくり支援：登録団体19団体 (コロナ禍の影響により新規登録なし)</p> <p>②子どもの居場所づくり支援：登録及び支援団体11団体 (内、新規登録2団体)</p> <p>市内の民間事業者等と見守りに関する協定を締結し、協定事業者が業務の範囲内で住民の異変に気付いた場合は、社協へ連絡・相談を行うことで見守り体制の構築を図った。協定締結により見守りの体制強化や要支援者の早期発見等に繋がった。</p> <p>①地域見守りネットワーク協定の締結：4事業所（社会福祉法人大樹会、社会福祉法人与勝福祉会、社会福祉法人起産石川、株式会社東江ガス）、全協定締結数：43協定（66事業所）</p> <p>②地域見守りネットワーク協定先からの相談件数：1件</p> <p>③地域見守りネットワーク連絡会 日 時：令和5年11月2日（木）午後2時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん3階 和室 参加者：9名 内 容：救命救急講習、意見交換、情報共有</p> <p>地域団体の活動や取り組みの冊子を作成し、自治会関係者や民生委員、関係機関等へ配布することで、地域での見守りや支え合い活動の活性化を図った。 地域福祉活動報告冊子の作成：300部</p> <p>支え合い委員会の設置及び活動支援 複雑多様化する課題について、地域の実情に合わせて、自治会や地域住民、関係機関等の様々な関係者が連携・協力しながら支え合う体制づくりを行うために、自治会ごとの支え合い委員会の設置と活動費助成等の支援を行った。 支え合い委員会設置：7自治会（みどり町3・4丁目自治会、前原自治会、赤野自治会、照間区自治会、川田自治会、南風原自治会、内間区自治会）</p>
評価・ 課題	支え合い委員会設置については、自治会への案内が年度途中となったため、設置に至った自治会は、7自治会のみとなった。 今後もボランティアコーディネーターや生活支援コーディネーターと情報を共有し、協働して居場所づくりや支え合い委員会設置など地域づくりを推進していく必要がある。

## (5) 法外援助事業

目的 内容	公的制度や、その他必要な援護を受けることが困難または緊急に援護を必要とする低所得世帯（者）等に対し、緊急かつ一時的な食費や生活費、医療費等を給付することで、当面の生活を確保し、関係機関とともに相談者の生活再建の支援を行います。
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
	事業（項目）
3	<p>生活援助</p> <p>現行制度では対応が困難な低所得世帯等に対し、緊急かつ一時的な食費や公共料金、医療費、就学に必要な経費等の給付を行うことで、当面の生活の確保並びに関係機関と連携した生活再建の支援を行った。 ・給付件数：5件</p>

	災害援護	令和5年度は、台風6号及び火災による家屋倒壊被害へ7件の申請、150,000円の給付を行った。 (前年度比較 ±0件 80,000円の減)
評価・課題	不安定就労や物価高騰の影響により、低所得世帯等の課題はますます厳しくなると予想されるため、引き続き関係機関と連携しながら、迅速に対応できるようにし、世帯の自立を見据えた支援が必要。 生活援助、被災者への給付をとおして、世帯の生活再建につながることができた。	

## (6) 災害時の支援体制づくりの推進

目的内容	うるま市防災計画に位置付けられた社協の役割について、行政との協議を踏まえ明確にするとともに、災害時の対応について職員の意識を高め、自治会や事業所、地域住民や団体、企業と連携できるような体制づくりを進めていきます。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業(項目)	実施内容
2	1 行政との連携	行政担当課との協議を実施できなかった。令和6年度は、行政と協議し協定書の締結を行う。
4	2 災害時対応マニュアルの見直しと職員への意識づけ 3 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営の職員への意識づけ 職員防災研修 日 時：令和5年12月20日(水) 午前9時30分～正午 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室 参加者：21名 内 容：災害発生時の対応について(被害想定や避難所運営、炊き出しなど) 講師 NPO法人まくとうー 代表理事 市原 信行 氏  炊き出し訓練 災害発生後を想定した炊き出し訓練を行い、地域・関係団体や企業との協力体制や市民への情報発信、要支援者への食糧配布をとおした安否確認の進め方など、災害発生時に必要な職員のスキルアップと、地域・団体、企業等との防災ネットワーク強化を目的に実施。同時に訓練で出来上がった食事を、歳末の時期に見守り等を必要とする市民等へ配布した。 日 時：令和5年12月27日(水) 午前9時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん 正面広場及び3階調理実習室 協 力：42名(NPO法人まくとうー、うるま市パーソナルサポートセンター、民生委員、自治会、NPO法人ちゅらゆい うるまkukulu 他) 食材等提供：うるま未来プロジェクトグループ うるマルシェ、 (株)野嵩商会 フレッシュプラザユニオンあげな店、沖縄ハム総合食品(株)、 (株)うむさんラボ、中村石油ガス 配食数：豚汁 550食、じゅーしーおにぎり 350個  うるみん館内防災訓練 日 時：令和6年2月27日(火) 午前9時30分～午前11時 場 所：うるま市健康福祉センター(うるみん) 参加者：約35名 内 容：総合避難訓練(1階清掃倉庫から火災発生想定) ・避難誘導(車椅子使用者含む)、消火設備設置箇所確認、消火訓練  災害ボランティアセンター運営者研修会の参加 日 時：令和6年3月7日(木) 午後1時～午後4時45分 場 所：ちゃたんニライセンター 参加者：3名 内 容：災害ボランティアセンター設置運営訓練・講演・グループディスカッション	
4	4 事業継続計画(BCP)の策定と職員周知の取り組み	地域生活支援センター事業継続計画(BCP)を作成した。

2	5 災害・防災備品等整備事業の実施 令和5年度は、災害ボランティアセンタースタッフベストを購入。令和6年度は災害ボランティアセンターの設置を想定した備品の整備計画を行う。
評価・課題	防災マニュアルの見直しを行い、令和6年度は災害ボランティアセンターの立ち上げマニュアル策定及び職員研修や訓練の実施計画を行う。また、行政との協定書の締結に向けて進める。

(7) 歳末たすけあい募金配分事業

目的内容	歳末に、生活困窮世帯や一人暮らし高齢者世帯など、支援を必要とする世帯に義援金の配布や行事食お届けサービスをおとして、地域で温かいお正月を迎えられるよう取り組みます。また、法外援助等で制度の狭間にある生活困窮世帯に必要な資金を給付することで生活再建を支援します。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業(項目)	実施内容
4	義援金給付事業	前年度より、50世帯(143人)の減少が見られました。要因として、高齢者世帯の施設入所や死亡により給付世帯が減少が考えられる。 世帯人員数：829世帯(1,158人) 令和5年度実績額5,281,000円
4	行事食お届けサービス事業	義援金給付事業は対象世帯の見直しに伴い、前年度より23世帯(51個)と増加が見られた。 世帯人員数：271世帯(389人) 令和5年度実績額389,000円
2	見守りお届けサービス事業(新規)	令和5年度モデル事業として、島しょ地域限定で、災害時に活用できる物品をお届けしながら見守りを行う事業。令和5年度は、8世帯へ多機能ライトをお届けした。 令和5年度実績額34,400円
3	法外援助事業 ※再掲	令和5年度は、台風6号及び火災による家屋倒壊被害へ7件の申請、150,000円の給付を行った。 (前年度比較 ±0件 80,000円の減)
評価・課題	義援金給付事業において、自治会ごとに推薦世帯の世帯分類にばらつきがあり、推薦いただく対象世帯認識の違いがあると思われる。推薦いただくにあたっては、関連する事業の説明会を実施し、統一した事業展開を図っていく。 島しょ地域限定でモデル事業として行った見守りお届けサービス事業は、当初見込みよりも申込が少ない現状にあった。次年度においては、地域ニーズに応じた事業展開を検討していく。	

11. 介護保険事業 (令和5年6月30日 事業廃止) (自主事業) 財源：介護保険

収入額	13,731,126円	支出額	13,731,126円	差異	0円
目的内容	<p>(指定居宅介護支援事業) 高齢者が要介護状態等にあっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮し、利用者の選択に基づき、適切な保険医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から、総合的かつ効果的に提供されるよう、公正中立な居宅介護支援を行います。</p> <p>(指定通所介護事業) デイサービスに通う利用者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、また、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図るために必要な日常生活上の世話及び機能訓練等の介護その他必要な援助を行います。</p>				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
—	<p>合併前の平成12年4月より23年開所の介護保険事業(指定居宅介護支援事業、指定通所介護事業)においては、法人運営事業の重要な財源を担っていたが、直近5年間の収益が、新型コロナウイルス感染症の影響もあり収益が見込めない状況となっていた。</p> <p>令和4年度に開催した機構改革検討委員会(通所介護事業所検討作業部会)にて、通所介護事業及び居宅介護事業の閉鎖を検討した結果、与勝地区の介護事業所への利用者受入や介護職員受入など対応可能な状況にあることで、介護事業所の閉鎖が承認され、令和5年6月30日をもって閉鎖となった。</p>				

事業（項目）					
1 指定通所介護事業	決算内訳				
	収入額	7,816,139円	支出額	7,816,139円	差異
利用者数：20名					
事業（項目）					
2 指定居宅介護支援事業	決算内訳				
	収入額	2,654,855円	支出額	2,654,855円	差異
利用者数：43名					
事業（項目）					
3 指定介護予防支援事業	決算内訳				
	収入額	316,324円	支出額	316,324円	差異
利用者数：5名					
事業（項目）					
4 通所型サービス事業	決算内訳				
	収入額	2,588,798円	支出額	2,588,798円	差異
利用者数：6名					
事業（項目）					
5 介護予防ケアマネジメント事業	決算内訳				
	収入額	355,010円	支出額	355,010円	差異
利用者数：3名					

## 12. うるま市ボランティアセンター運営事業

財源：市補助金

収入額	5,835,483円	支出額	5,751,653円	差異	83,830円
目的内容	ボランティアセンターを設置し、ボランティアコーディネーターを配置することで、市民のボランティア活動に関する理解と関心を高め、ボランティア活動の育成・支援を行います。また、各種活動に参加しやすい体制の整備の支援など、活動をとおり地域における福祉コミュニティの形成を図ります。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
事業（項目）					
4	<p>福祉教育の推進 学校と地域をつなげる視点に立った福祉学習プログラムや体験学習を提案し、地域の人材や資源の発掘、多様な学びの場を提供。新たなプログラムとしてヒューマンライブラリー沖縄と連携した福祉教育を実施し、福祉学習の強化・推進に取り組んだ。</p> <p>ボランティア活動に関する相談対応、情報の収集を行い、地域活動が円滑に行えるようボランティアコーディネートをを行った。 ①ボランティア活動に関する相談：250件 ②ボランティア新規登録：9団体、個人21名（総計：99団体、個人156名（延4,268名）） ③ボランティア活動協力依頼：63件、斡旋人数：延783名 ④ボランティア活動保険の加入促進及び加入手続き支援 ボランティア活動保険：51件（384名）、ボランティア行事用保険：61件（1,414名）</p> <p>・フードドライブ及び善意銀行の受付。集まった食料等は関係機関等と連携し、生活困窮者等へ配布した。 ①善意銀行の受付：51件（チャイルドシート・紙おむつ・生理用品・子ども用かけ布団、家電・古着・ぬいぐるみなど） ②フードドライブ：182件、3,283.35キロ（米、レトルト食品、缶詰など） ③夏のフードドライブキャンペーンの実施 期間：令和5年7月24日～9月8日 協力：市内社会福祉法人11ヶ所、認定こども園、行政</p> <p>④冬のフードドライブキャンペーンの実施 期間：令和6年2月14日～3月14日 協力：市内社会福祉法人12ヶ所、行政</p>				

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災、災害ボランティア研修会</li> <li>日 時：令和6年3月12日（火）午前10時～正午</li> <li>場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室</li> <li>参加者：24名</li> <li>内 容：防災・災害ボランティア活動について</li> <li>講師 NPO法人まくとうー 代表理事 市原 信行 氏</li> </ul>
評価・課題	事業を展開していく中で行政や企業、地域団体・ボランティア団体・個人など多種多様な団体との連携が必要不可欠であるため、継続して連携を強化していく必要がある。また、事業のスクラップ&ビルドを意識し、事業内容の見直しや新たな事業の検討など、市民ボランティア活動の強化発展ができるよう事業を展開していく。

13. うるま市生活支援体制整備事業

財源：市受託事業

収入額	19,667,214円	支出額	19,667,214円	差異	0円				
目的内容	地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するために必要な地域の高齢者の生活ニーズや地域資源の把握を行います。又、地域の支え合い活動を推進するための人材の発掘や高齢者を含めた地域住民が主体的に活動できる生活支援サービスが創設できるよう働きかけると共に、地域の多様な関係者との情報共有と連携強化を図るための場づくりを行います。								
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった								
事業（項目）									
4	地域の高齢者の生活状況、ニーズの把握と問題提起	フレイル状態の進行や社会的孤立、野良猫と近隣住民の問題など自治会関係者・地域住民・関係機関等から情報収集を行った。							
	日常圏域生活	かつれん	よなしろ	具志川北	具志川ひがし	具志川にし	具志川みなみ	いしかわ	合計
		85	149	135	101	158	86	125	839
4	地域の支援ニーズ及び地域資源の把握	地域住民のニーズ把握やサービス提供主体のマッチングを行う為、地域住民やボランティア団体、事業所との情報交換を行い、地域資源の把握に努めた。 ※認知症予防、買物支援（移動支援）での支援ニーズと提供主体のマッチングができた。							
	日常圏域生活	かつれん	よなしろ	具志川北	具志川ひがし	具志川にし	具志川みなみ	いしかわ	合計
		21	47	50	24	34	69	49	294
5	地域関係者や団体のネットワーク化及び人材、サービスの発掘	自治会定例会や行政・包括支援センター・関係機関との情報交換会へ積極的に参加。提供主体となる地域住民や団体・企業（事業所）を含めた地域支え合いのネットワーク化に向けた会議を開催。 ①第2層協議体（3地域合同開催） 令和6年3月6日（水） 30名参加 内容：移動支援について ②第1層協議体 令和6年3月13日（水） 34名参加 内容：移動支援、野良猫問題							
	日常圏域生活	かつれん	よなしろ	具志川北	具志川ひがし	具志川にし	具志川みなみ	いしかわ	合計
		65	75	134	72	81	85	87	599
5	事業推進に係るコーディネーター研修等への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主となる研修</li> <li>①CLC研修（全国コミュニティライフサポートセンター） ②さわやか財団情報交換会 ③上地武昭先生との勉強会 ④企業等（大塚製薬・いは薬局）との勉強会 ⑤他市町村開催の研修会参加（沖縄市、豊見城市、宮古島市）</li> <li>⑥コーディネーター養成講座 ⑦認知症サポーター養成講座</li> </ul>							
	日常圏域生活	かつれん	よなしろ	具志川北	具志川ひがし	具志川にし	具志川みなみ	いしかわ	合計
		40	20	35	41	34	35	37	242
評価・課題	<p>コロナ感染症の「第5類」移行に伴い、各種活動や日常生活はコロナ禍以前に戻ったが、引きこもりによる身体機能の低下や社会的孤立の問題など支援ニーズの把握や問題解決に向け協議体を開催。提供主体となる団体・企業・事業所等でネットワークを構築し、支援体制を整える必要がある。</p> <p>また、関係機関との協力体制や情報の共有など新たな取組みに繋がる研修へ参加することでコーディネーターの資質向上が必要。</p>								

14. 日常生活自立支援事業

財源：県社協受託事業

収入額	5,512,970円	支出額	5,512,970円	差異	0円
目的内容	<p>認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービス利用援助を行います。また、権利擁護に関する普及及び啓発活動を実施し、対象者が地域で安心して生活できるよう環境づくりに努めます。併せて、市民の成年後見制度の理解促進や利用に関する相談支援を推進します。</p>				
年度評価	<p>5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった</p>				
4	事業（項目）				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護に関する相談及び支援：3,989件</li> <li>・成年後見制度の利用に関する相談支援：8件（問合せ4件、相談支援4件）</li> <li>・福祉サービス利用援助事業の実施：3,983件</li> <li>・権利擁護の普及及び啓発               <ul style="list-style-type: none"> <li>①福祉まつりで日常生活自立支援事業及び成年後見制度パンフレットを配布</li> <li>②地域包括支援センター具志川ひがし・具志川にしと共催で権利擁護相談会を開催</li> <li>③社協だよりへの掲載（日常生活自立支援事業及び成年後見制度について）</li> </ul> </li> <li>・待機者解消に向けた取り組み（新規契約）：3件</li> <li>・生活支援員養成講座（全2回）の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>日 時：令和5年12月7日（木）午後2時～午後4時</li> <li>          令和5年12月8日（金）午後2時～午後4時</li> <li>場 所：うるま市勝連地区公民館2階 研修室1・2</li> <li>参加者：延9名（内、1名新規で委嘱）</li> <li>内 容：講義（生活支援員の基本姿勢、生活支援員のお仕事、認知症高齢者への支援、成年後見制度について）</li> </ul> </li> <li>・支援員フォローアップ講座の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>日 時：令和6年3月7日（木）午後2時～午後4時30分</li> <li>場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室</li> <li>参加者：6名</li> <li>内 容：講義、意見交換（事例から生活支援員の基本姿勢や役割を学ぶ、精神障がい者の地域生活を支えよう）</li> </ul> </li> </ul>				
評価・課題	<p>緊急性を考慮しながら、3名の新規契約を結ぶことができた。今後も緊急性を考慮し、待機解消に努めていく。権利擁護の普及啓発に取り組んだ事で、成年後見制度の利用相談や問い合わせが増加した。今後も権利擁護に関する幅広い相談に対応できるよう、研修会への参加等専門員の資質向上に取り組んでいく。養成講座後、生活支援員として新たに1名の登録があり、引き続き各地区の生活支援員の担い手確保やフォローアップのための研修体制を整備していく必要がある。</p>				

15. うるま市地域ふれあい相談支援事業

財源：市受託事業

収入額	17,754,000円	支出額	17,754,000円	差異	0円
目的内容	<p>地域共生社会の実現の理念の下、既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを活かし、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような“地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ”に対応する包括的な支援体制を構築するため、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する重層的支援体制整備事業への移行準備を行うために地区圏域に包括的相談推進員（CSW）を配置し、総合相談や関係機関等とのネットワークの体制づくり、地域住民等との支え合いの場づくりなどの環境整備を行います。</p>				
年度評価	<p>5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった</p>				
4	事業（項目）				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な相談・支援を行うため、福祉圏域ごとに包括的相談推進員（CSW）を配置し、アウトリーチを主体とした相談支援を行った。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①相談支援件数：延べ1,694件、実人数572名（高齢者、生活困窮者、障がい者、未診断、ひとり親等）</li> <li>②相談内容：病気や健康・障害、仕事、家族関係、ひきこもり・不登校、住まい、DV・虐待、生活費、近隣関係、食料支援など</li> <li>③連携先：地域包括支援センター、自治会、民生委員など</li> <li>④アウトリーチ等に通じた継続的支援（ひきこもり）：相談対応41件、実人数5名</li> </ul> </li> </ul>				

4	<p>⑤津堅島出張相談会の実施  令和5年6月9日（金）・津堅公民館ホール及び訪問  令和5年10月13日（金）・津堅公民館ホール及び訪問  令和6年2月16日（金）・津堅公民館ホール及び訪問</p> <p>⑥地域支援関係者のネットワーク構築  地域カンファレンスの開催（2か月に1回）  令和5年5月9日（火）午前10時～正午・24名  令和5年7月4日（火）午前10時～正午・16名  令和5年9月5日（火）午前10時～正午・13名  令和5年11月7日（火）午前10時～正午・15名  令和6年1月9日（火）午前10時～正午・20名  令和6年3月5日（火）午前10時～正午・20名</p> <p>⑦地域懇談会の開催（再掲）  具志川地区：令和5年7月28日（金）・参加者16名  勝連地区/与那城地区：令和5年10月5日（木）・参加者5名  石川地区：令和5年10月19日（木）・参加者16名</p> <p>⑧支え合い委員会や地域の情報交換会への参加：312回</p>
評価・課題	<p>重層的支援体制整備事業へ移行を推進するための移行準備事業の一部を受託し、ひきこもり支援や津堅島出張相談会等の新たな取り組みを実施した。事業を担う包括的相談推進員（CSW）は、地域に密着しつつ、各圏域の総合相談・支援や他職種連携、小地域（各行政区）福祉活動の推進など、住民主体の支え合いの仕組みづくり等に関わる重要な役割を担っている。安定的な人材確保に向けて、主管課と処遇改善や人員体制等の調整を踏まえ、専門職の人材確保と安定雇用を図りつつ、令和8年度からの重層的支援体制整備事業に向けて、各圏域の総合相談支援と関係機関との連携体制の構築・強化を図る必要がある。</p>

16. ちゅいしいじい事業（新：8月開始）

財源：県補助事業

収入額	3,367,000円	支出額	3,265,589円	差異	101,411円
目的内容	<p>複数の社会福祉法人等が参画する「法人間連携プラットフォーム」を設置し、プラットフォームに参画する法人の間で、地域課題に関する討議を行うとともに、社会福祉法人等連携による協働事業の立ち上げや実施方法の検討、取組状況の検証等を行います。</p>				
年度評価	<p>5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持  2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった</p>				
5	<p>事業（項目）</p> <p>市内社会福祉法人ネットワークの構築と地域課題解決に向けた取り組みの創出や社会福祉従業者の人材確保に向けた取り組みを行った。</p> <p>連絡会の開催</p> <p>①令和5年6月28日（水）  参加者：8法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 2法人）・12名  内 容：令和4年度報告と令和5年度活動について  うるま市の地域（福祉）課題についての意見交換</p> <p>②令和6年1月18日（木）  参加者：8法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 2法人）・9名  内 容：令和5年度の活動報告と振り返り  今後の活動に向けての意見交換</p>				
5	<p>研修会の開催</p> <p>①令和5年7月25日（火）  参加者：7法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 1法人）・12名  内 容：地域における公益的取組みについて</p> <p>②令和5年10月27日（金）  参加者：14法人（障がい・高齢分野 8法人、保育分野 6法人）・29名  内 容：BCP（事業継続計画）の策定と運用について</p> <p>③令和5年12月13日（水）  参加者：10法人（障がい・高齢分野 6法人、保育分野 4法人）・22名  内 容：職員の定着に向けた取り組みについて  ※沖縄労働局「沖縄県早期離職者定着支援事業」との合同セミナー</p>				

5	<p>フードドライブの実施（再掲）</p> <p>①夏のフードドライブキャンペーン        期 間：令和5年7月24日～令和5年9月8日        共 催：11法人並びにうるま市内認定こども園        実 績：585kg・延52件（共催法人他関係機関、企業、個人含む）</p> <p>②冬のフードドライブキャンペーン        期 間：令和6年2月14日～令和6年3月14日        共 催：13法人        実 績：672kg・延39件（共催法人他関係機関、企業、個人含む）</p> <p>③うるま市福祉のお仕事・就活応援フェアの実施        日 時：令和5年8月26日（土）午後1時～午後5時        場 所：うるま市生涯学習・文化振興センターゆらてく        参加法人：8法人        内 容：就職相談ブース、適職診断・FP出張相談・占いブース、フードパントリー        ステージイベント（現役福祉職員によるライブ・座談会）        来場者：31名（大学生、一般求職者）</p> <p>④法人後見推進検討委員会の開催（社会福祉法人連携による法人後見体制の整備）        日 時：令和5年11月30日（木）午前10時～正午        場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 あいあい作業室        参加者：9名        内 容：社会福祉法人ネットワーク連絡会検討内容の報告        法人後見推進に必要な体制の整備と今後の進め方について</p>
評価・課題	<p>高齢・障がい分野の今後の課題である、成年後見制度の担い手確保に向けた法人後見の協働実施体制に向けて、委員会を設置し具体的な検討が始まった。こうした社会福祉法人の協力があることでその取り組みを推進していくためにも、法人各所が安心して参画できるためにも福祉人材育成と人材確保に向けた取り組みは一層強化推進していく必要がある。</p> <p>市内社会福祉法人の地域福祉推進へのさらなる参画を促し、複数の社会福祉法人間のネットワーク構築の拡充を図りながら、うるま市の地域課題解決に向けて協働できる体制の整備を強化していく。</p>

17. 地域でつくる子ども体験事業（新）

財源：県補助事業

収入額	1,000,000円	支出額	1,000,000円	差異	0円
目的内容	<p>うるま市の子ども達を対象に、自分たちの暮らす地域にある伝統文化、環境美化、防災などについて学ぶ機会を提供し、「ふだんのくらしのしあわせ」のために自分たちができることを考える機会をとおして、一人一人の力強く生き抜く力を育み、将来の地域のリーダー育成など子どもの健全育成を目指した体験事業を開催します。</p>				
年度評価	<p>5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持          2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった</p>				
5	<p>事業（項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の開催           <ul style="list-style-type: none"> <li>①第1回実行委員会                日 時：令和5年6月29日（木）午前10時～正午                場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室                出席者：9名</li> <li>②第2回実行委員会                日 時：令和6年10月27日（金）午前10時～正午                場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室                出席者：7名</li> </ul> </li> <li>・2023うるまキッズサマースクールの開催（NPO法人まくとうー共催）            実施日：令和5年8月14日（月）午前8時30分～午後5時                      令和5年8月16日（水）午前8時30分～午後5時            場 所：うるま市健康福祉センターうるみん3階 視聴覚室A・B 他            参加者：小中学生27名、高校生（運営ボランティア）21名            内 容：うるま市消防本部見学・体験、講話（防災・災害、ハーリー、環境美化等について）、炊き出し・ハーリー体験、グループワーク、ぼうさいこくたいこども会議及びうるま市福祉まつりでの報告発表            協力企業、団体：沖縄ヤクルト(株)、(有)全沖フード、勝連漁港協同組合、勝連漁港協同組合 平敷屋支部、海上自衛隊沖縄基地隊、陸上自衛隊勝連分屯地第15高射特科連隊第2高射中隊、自衛隊沖縄地方協力本部 沖縄募集案内所、SUMMER DRAGONS、うるま市消防本部、うるま市消防団</li> </ul>				



評価・課題	地域住民やボランティア団体、行政、企業、福祉関係者などと協働し、子ども達への福祉教育の視点から、防災、伝統文化、環境などの学びや体験する機会を提供できた。福祉教育の推進に市内の多様な主体の参画によるネットワークの構築は不可欠であるため、プログラムの見直しや新たな企業、団体などとのネットワーク構築を強化していく必要がある。
-------	---

18. うるま市障がい者等基幹相談支援センター運営事業（新）

財源：市受託事業

収入額	512,799円	支出額	512,799円	差異	0円
目的内容	「総合的・専門的な相談支援」、「地域の相談支援体制強化」、「地域移行・定着促進」「権利擁護・虐待防止」等の障がい者等が、基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活または社会生活を営むために必要な支援を行う事で、障がい者等の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず全ての人が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目指します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
-	事業（項目） 2月から事業を受託し、令和6年度の事業始動に向けて器具備品の整備や人材の確保など、障がい福祉課と協力し行った。				

令和5年度 うるま市社会福祉協議会 決算一覧

事業名	収入総額	364,842,891円	支出総額	339,804,480円	差異総額	25,038,411円
1. 法人運営事業	収入額	177,374,757円	支出額	165,235,194円	差異	12,139,563円
2. 福祉センター運営事業	収入額	1,277,540円	支出額	1,277,540円	差異	0円
3. 障害者社会参加促進事業	収入額	10,163,448円	支出額	10,163,448円	差異	0円
4. ふれあいコール事業	収入額	1,207,250円	支出額	1,207,250円	差異	0円
5. 地域活動支援センター事業	収入額	38,255,360円	支出額	30,996,222円	差異	7,259,138円
6. 生きがい活動支援通所事業	収入額	17,880,500円	支出額	17,880,500円	差異	0円
7. 福祉金庫貸付事業	収入額	839,215円	支出額	488,000円	差異	351,215円
8. 生活福祉資金貸付事務事業	収入額	24,535,893円	支出額	21,936,547円	差異	2,599,346円
9. 権利擁護センター事業	収入額	12,196,469円	支出額	9,692,561円	差異	2,503,908円
10. 共同募金配分金事業	収入額	13,731,867円	支出額	13,731,867円	差異	0円
11. 介護保険事業	収入額	13,731,126円	支出額	13,731,126円	差異	0円
12. うるま市ボランティアセンター運営事業	収入額	5,835,483円	支出額	5,751,653円	差異	83,830円
13. うるま市生活支援体制整備事業	収入額	19,667,214円	支出額	19,667,214円	差異	0円
14. 日常生活自立支援事業	収入額	5,512,970円	支出額	5,512,970円	差異	0円
15. うるま市地域ふれあい相談支援事業	収入額	17,754,000円	支出額	17,754,000円	差異	0円
16. ちゅいしいじい事業	収入額	3,367,000円	支出額	3,265,589円	差異	101,411円
17. 地域でつくる子ども体験事業	収入額	1,000,000円	支出額	1,000,000円	差異	0円
18. うるま市障がい者等基幹相談支援センター運営事業	収入額	512,799円	支出額	512,799円	差異	0円